

2.4 館内の移動、災害時の避難計画

館内の移動に関する取組みは、2022年3月ワークショップ（第1回）の移動をテーマとした当事者ヒアリングからスタートし、2022年6月15日ワークショップ（第2回）に方針を確認した。

以降、建築実施設計と展示基本設計で検討を進め、2023年1月30日ワークショップ（第4回）で、館内の移動及び避難計画について説明し、確認と意見交換を行った。

当事者の提案に基づき、避難計画で必要とされた情報をもとに避難経路マップを作成し、ホームページへ掲載した。

以下、館内の移動及び災害時の避難計画に関する取組み内容を記載する。

2.4.1 館内の移動に関するヒアリングと方針確認

2022年3月ワークショップ（第1回）の移動をテーマとした当事者ヒアリングはオンラインでの開催で、建物平面プラン及び展示イメージとルートの説明後に意見を聞く流れで進めた。館内の移動ルートは、展示体験のメインルートと2ルートとし、1つは130mの上りスロープを使うルートといった検討初期の複雑な案だったことから、当事者からは、災害時の避難に対する不安も含め多くの質問や意見が出された。

ヒアリングでの意見は以下のように今後の方針としてまとめ、2022年6月15日ワークショップ（第2回）で確認した。

- ・「みんな一緒に楽しめる」ことを基本方針とする
- ・展示ルートは1ルートとし、ライドで2階に上がりスロープで下る一方通行とする
- ・災害時の避難計画は実施設計が進んだ時点でわかりやすい資料で丁寧に説明する

なお、避難計画は各種法令で定められていることから建築実施設計の図面等をベースにわかりやすい資料を作成した後にはあらためてワークショップを開催し説明することを伝えたが、当事者からは質問や不安の声が多く出た。この段階で、基本的な避難計画の考え方は提示すべきだった。

2.4.2 館内の移動及び避難計画の確認

方針に沿って建築実施設計及び展示基本設計を進め展示ルート及び避難計画を作成し、2023年1月30日ワークショップ（第4回）で説明し確認した。質問や意見に対する回答は2023年3月29日ワークショップ（第5回）で報告し確認した。

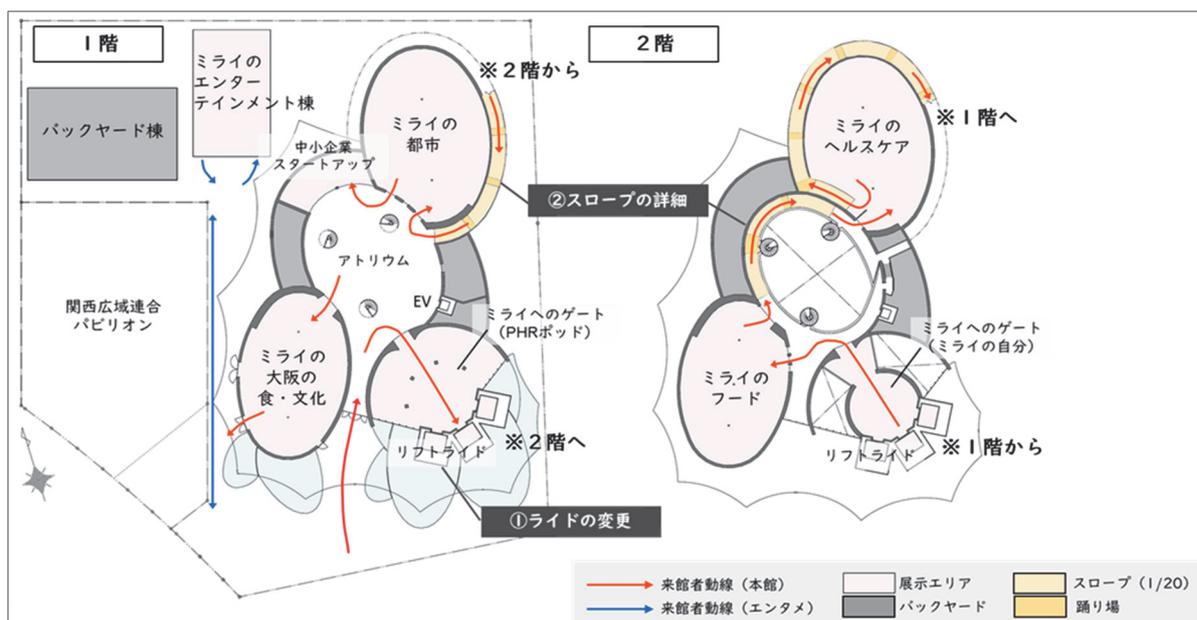
以下、説明内容と意見、意見に対する回答の概要を記載する。

① 館内の移動

博覧会協会の予約システムを活用し、なるべく待ち時間が生じない運用を前提に、すべての来館者が同じルートで一緒に楽しめることを基本方針として検討を進め、以下を説明した。

- ・展示体験のルートは、入館から最後までみんなが同じルートで楽しめるように、1階から2階はライドで、2階から1階へはスロープでの移動とし、段差を設けず、原則一方通行
- ・ライドは「よりワクワク感を感じてもらおう」「すべての人が一緒に体験できる（車いす使用者やバギーに乗った医療的ケア児とその家族、ベビーカーを使用する家族連れ等が別ルートに案内されることがない）」「より高い安全性が確保できる」ように、『カート型』から『リフト型』のライドに変更
- ・スロープは2カ所あり、勾配は1/20、その他有効幅員、手すりの位置及び高さを説明

展示体験ルート(来館者動線) (2023年1月30日ワークショップ(第4回)資料(抜粋))

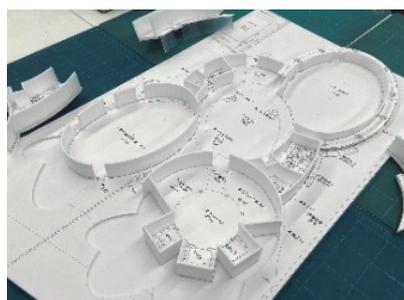


② 災害時の避難計画

模型を用いて避難経路を説明し、防災設備の機能や作動内容については写真を用いてわかりやすく説明したことから、当事者の不安がやわらぎ円滑な対話が進み、移動と避難計画に関する事前情報の提供や運営に関する意見交換ができた。

○ 避難経路

非常口の位置や各展示ゾーンからの避難経路を図面と模型で説明した。



模型(1F)



模型を使って避難経路を確認している様子

(例) 避難経路(屋外避難階段)に関する質問と回答

質問:避難時に使用する階段に煙はまわってこないか

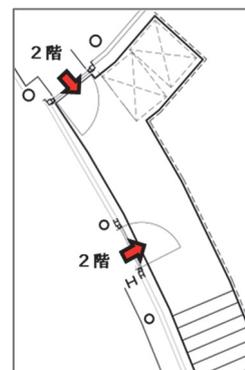
回答:外部階段なので、煙が充満することはない

質問:避難場所からはしご車で直接救出できるのか

回答:はしご車で直接救出はできないが、スタッフまたは消防隊がすぐに駆け付ける。また、車いすの一時待避スペースと警備員室と会話ができるモニター付きインターホンを設置する

質問:スペースは車いす2台分で足りるのか

回答:Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドラインの推奨基準を満たしている



西側の屋外階段

○ 火災発生時の安全確保及び緊急時の避難誘導のための設備

防災設備の種類や機能がわかる写真を用いた資料で説明した。

防災設備の説明資料(抜粋)

来館者の避難計画 (設備)		confidential
<p>● 火災発生時の安全確保のための設備</p> <p>煙</p> <p>①防煙区画 →火災時に発生した煙を建物全体に拡げないために、壁もしくは垂れ壁により区画します。</p>  <p style="text-align: right;">← 防煙垂れ壁</p> <p>②排煙設備 →火災時に発生した煙を建物外部に排出するために、煙が自然に排出される排煙口もしくは機械で強制的に煙を排出する装置を設置します。</p>  <p style="text-align: right;">← 自然排煙窓</p> <p>火</p> <p>③消火設備 →館内各所に、火災時に自動的に作動するスプリンクラーを配置します。</p>  	<p>● 緊急時の避難誘導のための設備</p> <p>①非常放送 →音声により警報と避難誘導を建物全体に行う放送設備を設置します。</p> <p>②光警報装置 →トイレには、光の点滅で警報する装置を、各ブース等の個室に設置します。</p> <p>③緊急情報表示システム →非常放送と連動して、火災情報やその他災害情報を表示する表示板をアトリウムに設置します。</p>  <p>④避難口誘導灯 →避難口には、点滅機能および音声誘導機能を持った避難口誘導灯を設置します。</p>  <p>⑤モニター付きインターホン →外部階段の一時待避スペースに、防災センターと会話ができるモニター付きインターホンを設置します。</p>	

23

(例) 緊急情報表示システムに関する質問と回答

質問:緊急情報表示システムはどのような情報が表示されるか

回答:主に、聴覚障がい者に、火災等の発生に伴う警報等に気づいてもらうためのもので「火災発生中」というような情報が文字で表示される

質問:緊急情報表示システムはアトリウムのどこに設置するのか

回答:1階のトイレ付近、2階のエレベーター付近とトイレ付近の3か所に設置

(例) 避難口誘導灯に関する質問と回答

質問:停電になった際も、避難口誘導灯は点灯するか

回答:誘導灯は電池式。また、停電時に点灯する非常用照明も、避難経路の各所に設置

2.5 展示

お困りごとの違いにより展示の感じ方や楽しみ方はさまざまなことから、誰もが楽しめる展示体験を実現するため、2023年3月29日ワークショップ(第5回)で、当事者から楽しみ方や使いやすさの工夫等のアイデアを共有することからはじめた。この共有で得られた知見をもとに設計を進め、2024年5月28日ワークショップ(第9回)で、主要な展示について実物大モックアップによる検証を行い、実施設計に反映した。

2.5.1 誰もが楽しめる展示とは、を考える

2023年3月29日ワークショップ(第5回)では、展示に関するコンセプトを示し、当事者がこれまでに博物館や美術館といった類似施設で経験した感動したことや残念に感じたことを3班に分かれて意見交換した。

誰もが同じ体験ができること、選択肢があること、ある人には良くてでもストレスを感じる人がいること等、企画設計を進めるうえで大切なことを設計者やクリエイターはあらためて認識することができた。

感動したことや残念に感じたことのまとめは、2023年10月24日及び11月7日ワークショップ(第6回)で報告し、あわせてリボン体験の概要を説明のうえ意見交換を行い、引き続き設計を進めた。



展示のコンセプトを説明している様子



意見が記入されたたくさんの付箋

類似施設で経験したよかったこと・残念だったこと(抜粋)

項目	主なアイデア
よかったこと	<ul style="list-style-type: none">・触れたり動かせる展示がある・音声ガイドがある・演劇鑑賞の時に字幕表示がある・言葉が無くても子どもから大人まで楽しめる・車いす使用者の観覧スペースがある・光や音の演出等が事前にわかる・スタッフがとてもいい顔をしている
残念だったこと	<ul style="list-style-type: none">・展示物の位置が立位前提となっていて見えづらい・音が大きすぎたり、フラッシュを多用する展示は発作の起因となりやすい・健常者と障がい者でルートが分かれていて一緒に楽しめない・ベンチが少なく、立ちっぱなし。歩きながら見るので疲れる・発達障がい等の見えない障がい者に配慮が無かった

2.5.2 モックアップによる検討と展示への反映

2024年5月28日ワークショップ(第9回)で、展示のメイン体験であるリボーン体験を誰もが楽しんでいただけるよう、主要な展示物(①ミライのライド、②展示ブースサイン、③カラダ測定ポッド)について実物大モックアップによる検証を実施した。検証時の意見やアドバイスを踏まえて展示設計を進め、2024年10月15日ワークショップ(第11回)で展示設計への反映内容等を報告した。

以下、設計での対応や完成した展示、会期中のアンケート結果を記載する。

① ミライのライド(ライドの広さや映像の見やすさを確認)

ミライのライドの実物大モックアップを用いて、広さやモニターの位置等を確認した。

ライドの広さから乗車人数は10人程度で運用することとし、モニターの位置は見やすさを考慮し15cm高くする等、設計や運営に意見を反映した。

ミライのライドは、UD全体アンケート(61ページ参照)の結果からも多くの方に楽しんでいたのだが、視覚障がい者の回答では「楽しめた」及び「やや楽しめた」の割合が低かった。

実物大モックアップ検証での主な意見と対応

主な意見	対応
人だかりを配慮し、字幕は上部表示が良い	字幕表示位置を上部に移動する
映像の高さはもう少し高いほうが良い	見やすさを考慮し、モニターを15cm高くする
こどもや車いす使用者は画面が見えづらい	最適な乗車人数を設定する(10人で設定した)
映像のスピード感が早すぎると目が回る 映像の光や大きい音が苦手な人がいる	ホームページにセンサリーマップを掲載し事前に情報共有する



ミライのライドを確認している様子



完成したミライのライド

(参考) UD全体アンケートの関連する問いへの回答結果

Q2-2-1 ミライのライドは楽しめましたか。

単位:人

/障がいの有無	無	有				総計
			内視覚	内車いす	内聴覚	
楽しめた	10	20	1	7	1	30
やや楽しめた	1	9	6	1	0	10
どちらでもない	2	8	4	2	0	10
あまり楽しめなかった	2	1	0	1	0	3
楽しめなかった	0	3	1	0	1	3

Q2-2-3 広さは十分でしたか。

単位:人

/障がいの有無	無	有				総計
			内視覚	内車いす	内聴覚	
広い	3	15	2	4	2	18
やや広い	0	7	2	1	0	7
どちらでもない	10	17	7	6	0	27
やや狭い	2	1	0	0	0	3
狭い	0	0	0	0	0	0

② 展示ブースサイン(文字の見やすさや読みやすさを確認)

展示ブースサインの実物大モックアップを用いて、文字の見やすさを確認した。

文字の高さの変更や、切り文字としていたデザインを文字のまわりに白い縁を付ける等視認性に配慮する等、設計に意見を反映した。また、視覚障がい者が情報を得られるようナビレンス(49ページ参照)を導入することとした。

実物大モックアップ検証での主な意見と対応

主な意見	対応
前に人がいると見えない。企業ロゴの位置と説明の位置を上下逆にしたほうが良い	ロゴや文字のサイズの大きさや高さ等のデザインを変更する
文字の青や緑は弱視の人には見えにくい	文字のまわりに白い縁を付け視認性を良くする
視覚障がい者が情報を得られるように	ナビレンスを設置する
子どもや外国人が読みやすいよう説明文はルビがあったほうが良い	タイトルや説明文はすべてルビを振る



展示ブースサイン



文字の見やすさを確認する様子



変更後のブースサイン(下段)

③ カラダ測定ポッド

カラダ測定ポッドの実物大モックアップを用いて、入口の幅や広さ、操作パネルの位置及びモニターに表示される文字の大きさ等を確認した。

入口の幅を広げたり、カウンターの形状を変更したり等、設計に意見を反映した。一方、タッチパネルや体験者の視線を用いた測定については、視覚障がい者から利用が難しいとの意見があったが、反映はできなかった。

カラダ測定ポッドは、UD全体アンケートの結果から、広さは概ね適切で多くの方に楽しんでいただけたが、タッチパネルの操作及び音声や画面の案内については、視覚障がい者と車いす使用者の回答は「やや不満」及び「どちらでもない」の割合が高かった。また、自由記入では、「スタッフのサポートにより問題なかった」という意見がある一方、「ボタン式であれば操作できるのに、タッチパネルのため自身で操作できないことに不満を感じた」との意見があった。

実物大モックアップ検証での主な意見と対応

主な意見	対応
カーテンによる遮閉感は一入で入りづらく、また開閉が難しい	開閉しやすいよう下部は600mm空け、遮蔽感も緩和する
介助者が一緒に入る場合、センサーやカメラに問題ないか	カメラの撮影位置に介助者が映り込まないようにスタッフが伝える
入口の正面に操作盤やモニターがあるほうが、車いす使用者は使いやすい	機器の収納スペースと測定機材の取り付け上難しいため、当初設計どおりとする
出入口の間口1350mmは狭い、また入口付近のカウンターが出っ張っていて入りづらい	幅1400mmへ変更、またカウンターの奥行きを最小限にし、角を丸める処理により入りやすくする
ID(バンド)リーダーが右側にしかない。左手しか使えない場合、手が届きにくいので手前してほしい	リーダーが左側と右側にあるポッドを設置、リーダーはできる限り手前にする
「戻る」ができるようにしてほしい	測定開始前にキャンセルができるようにする
自身の情報は音声で聞きたい	個人の情報は隣に聞こえてしまうため読み上げないこととし、スタッフがサポートする



カラダ測定ポッドの広さ等を確認する様子



完成したカラダ測定ポッド



モニターを確認する様子



完成したモニター

(参考) UD全体アンケートの関連する問いへの回答結果

Q2-1-1 カラダ測定ポッドでの体験は楽しめましたか。

単位:人

/障がいの有無	無	有				総計
			内視覚	内車いす	内聴覚	
楽しめた	12	26	5	6	2	38
やや楽しめた	1	8	3	2	0	9
どちらでもない	2	5	3	2	0	7
あまり楽しめなかった	0	1	1	0	0	1
楽しめなかった	0	1	0	1	0	1

Q2-1-2 カラダ測定ポッドの広さは十分でしたか。

単位:人

/障がいの有無	無	有				総計
			内視覚	内車いす	内聴覚	
広い	2	10	1	3	1	12
やや広い	0	6	1	1	0	6
どちらでもない	13	24	10	6	1	37
やや狭い	0	1	0	1	0	1
狭い	0	0	0	0	0	0

Q2-1-3 タッチパネルの操作はいかがでしたか。

単位:人

/障がいの有無	無	有				総計
			内視覚	内車いす	内聴覚	
満足	8	16	0	3	1	24
やや満足	4	8	2	3	1	12
どちらでもない	2	6	5	0	0	8
やや不満	1	9	3	5	0	10
不満	0	2	2	0	0	2

Q2-1-4 カラダ測定を開始した後の音声や画面の案内はいかがでしたか。

単位:人

/障がいの有無	無	有				総計
			内視覚	内車いす	内聴覚	
満足	11	22	2	4	2	33
やや満足	0	5	2	2	0	5
どちらでもない	3	9	6	2	0	12
やや不満	1	4	1	3	0	5
不満	0	1	1	0	0	1

2.5.3 協賛企業展示への対応

リボン体験ルートには20を超える協賛企業の個別展示があることから、協賛企業が展示企画の参考となるよう博覧会協会のガイドラインに沿って整理した検討手順書を作成し、2023年12月に協賛企業に提供した。この検討手順書には2023年3月29日ワークショップ(第5回)で行った類似施設での感動したこと、残念に感じたことのまとめも添付し、各協賛企業における展示企画の創意工夫に資するものとなった。



ユニバーサルデザイン検討手順書

2.5.4 会期中の改善

会期中、来館者からの意見に対しては、UD推進チームの会期前の検討を踏まえ、事務局においてサインの追加等さまざまな対応をした。以下に対応例を記載する。

(事例1) カラダ測定ポッドにおけるペースメーカー装着者の利用基準の運用改善

カラダ測定ポッドの一部に、微弱な電流が流れるセンサーに触れる体験があることから、機器の使用基準によりペースメーカー装着者はリボン体験不可としていた。会期中、ペースメーカー装着者やその同伴者から「センサーに触れない案内や物理的な対応があれば問題ないのではないか」との提言があったことから、みんな一緒に楽しめるよう運用を見直した。具体的には、ペースメーカー装着者が来館した際は、事務局がカラダ測定ポッド体験時の注意事項を説明用シートを用いて丁寧に説明し、体験を希望された方にはセンサーにカバーを取り付けたうえでカラダ測定ポッドに案内した。



説明用シート



センサーにカバーを取り付けた状態

(事例2) エントランスにおける吊り下げサインの設置

万博来場者の増加に伴い入館待ち列が形成され、エントランス前の立て看板とスタッフの声掛け案内では混乱を生じるようになったことから、視認性が良く誰もが理解しやすい誘導が可能となるよう大型の吊り下げサインを追加した。来館者の誘導をよりスムーズに行うことができ、聴覚障がい者からも「遠くからでもわかりやすくて良かった」と意見があった。



吊り下げサイン設置前(5月)



吊り下げサイン設置後(7月)

2.6 視覚情報の対応(ナビレンス*の活用等)

展示での視覚情報への対応として映像等に音声をつけることとしていたが、2024年5月28日ワークショップ(第9回)での展示の実物大モックアップ検証において、視覚障がい者から「展示に関する情報が得られず楽しめない」と意見があった。そのため、視覚障がい者を個別訪問し、十分に伝えることができていなかった展示内容の説明とヒアリングを実施した。ヒアリングによりお困りごとは個人により違いがあることを深く理解することができ、ナビレンスの導入へのチャレンジや、その他の配慮として提案のあったアイデアを実施することとした。

*ナビレンス:スマートフォンで利用できる無料アプリ。案内が必要な場所に設置したナビレンスコードをフォーカス不要で素早くコードを読み取り、距離や事前に作成した文章を音声で聞くことができる。

2.6.1 ナビレンス(音声による案内)

ワークショップ(第10回)として、2024年7月8日、9日、11日に視覚障がい者3名へ個別訪問しヒアリングを行った。ヒアリングでは、「映像の情景や展示説明を音声で伝える工夫を」、「介助者がいない場合の展示物の操作や移動のサポートが必要」との意見があった。また、3名とも普段からスマートフォンの音声ガイドアプリを楽しむことがあったことから、ナビレンスの導入について提案があり、事務局で展示解説や館内の移動への対応を考慮し、導入を決定した。

導入にあたっては、展示ゾーンの入口や展示ブースサイン、案内・誘導サインがある場所とし、次に、移動がしやすいよう必要な場所(トイレ設備案内含む)にも設置することとした。さらに、展示映像の情景説明や移動案内の音声内容は、複数の視覚障がい者に確認しながら作成した。

2025年2月22日、3月8日ワークショップ(第13回)では、現地にナビレンスコードを仮貼りし、視覚障がい者4名と実際にナビレンスを使用しながら、読み取りやすいか、音声内容が理解しやすいか等を歩きながら確認し、開幕までに準備を完了した。



使用中のスマホ画面



ナビレンスコードの位置を確認する様子



ナビレンスコードの位置を調整している様子



音声を確認し、ミライのライドの到着を待つ様子

(ミライのライドの映像を解説するナビレンスの音声)

ドローンが発車しました。
街並みが小さくなっていきます。
どんどん上昇しています。
おや!なにか見えてきました。
未来の大阪の街並みですね。
ビルの中を飛んでいます。
あれはAR看板。
おっと!ドローンバスが横ぎりました。
青空の中、どんどんビルの屋上に向けて下降しています。
バック体制になりましたね。
ガレージに引き込まれていきます。
扉もしまって、未来の大阪に到着です。



ミライのライドの様子

現地確認での主な意見と対応

主な意見	対応
使用したことがない人のためにホームページに使用方法やアプリの設定方法を掲載したほうが良い	ホームページにナビレンスの利用方法や設置している高さ、使い方を掲載する。また、利用者への説明を行う
コードの設置位置が高いとコードに気づきにくい	
まだ導入施設があまりないので、使い方になれる必要がある	
コードの設置情報があるとコードを見つけやすい	
ナビレンスですべての案内ができるわけではない。うまく使い分ける工夫が必要	
ナビレンスコードの距離の音声と自分の感覚がずれると曲がる位置を間違える可能性がある	
みんなトイレから出た後に案内があると良い	追加で設置する
ミライのヘルスケア2の入口は、共用トイレ側からの案内も必要	内容をわかりやすく修正する
トイレの洗浄操作パネルの案内は、細かすぎると覚えられない。流すボタンとトイレトペーパーの位置を教えてください	
トイレ内の設備は時計回りに順番に案内してもらおうほうが混乱しにくい	

○ 評価・課題

UD全体アンケート(61ページ参照)の結果は、ナビレンスの音声を聞くことで展示は「やや楽しめた」、「どちらでもない」の回答の割合が高かった。また、「ナビレンスはスタッフや同伴者による展示説明の補完になる」との意見があった一方、「にぎやかな場所では聞き取りにくい」、「情報量が多すぎると把握することが大変」、「慣れておらず使いづらい」といった意見があった。

ナビレンスによる移動に関する質問では、「どちらともいえない」、「あまり役に立たなかった」の割合が高かった。視覚障がい者の館内移動は当初、ナビレンスを使用し、周囲のアテンダントや企業スタッフ等による連携での案内・誘導を想定していた。しかし、アンケートでは、「多数の来館者によりナビレンス間を移動することが難しい」、「全盲の視覚障がい者にはスタッフ等によるサポートが必要」との意見があり、課題が残った。なお、同伴者がいない単独の視覚障がい者が来館した時は、事務局やボランティアが案内する対応をした。

(参考) UD全体アンケートの関連する問いへの回答結果

Q3-3-1 映像の展示で情景がわかる音声をナビレンスで聞くことができます。このことにより展示を楽しめましたか。 単位:人

/障がいの有無	無	有	有			総計
			内視覚	内車いす	内聴覚	
楽しめた	2	3	0	0	0	5
やや楽しめた	0	5	4	0	0	5
どちらともいえない	1	8	5	2	0	9
あまり楽しめなかった	0	2	1	0	0	2
楽しめなかった	0	0	0	0	0	0

Q3-3-2 ナビレンスは移動の補助として役立ちましたか。 単位:人

/障がいの有無	無	有	有			総計
			内視覚	内車いす	内聴覚	
役立った	1	0	0	0	0	1
やや役立った	1	4	2	0	0	5
どちらともいえない	3	7	5	1	0	10
あまり役立たなかった	1	3	3	0	0	4
役立たなかった	0	1	0	1	0	1

2.6.2 ヒカリの坂道(リボーン体験にある110mの下りスロープ)の課題対応

リボーン体験ルートには30mと110mの2か所の下りスロープがあり、特に2階から1階への110mのスロープには踊場が9か所あることから、車いす使用者や高齢者の通行に配慮した点状ブロックの敷設方法を検討した。検討にあたり、複数の視覚障がい者に事務局案を提示し意見を聴いた。

意見を踏まえ検討した結果、点状ブロックは始点と終点のみに設置し、音声案内をすることとした。

○ 提示した事務局案

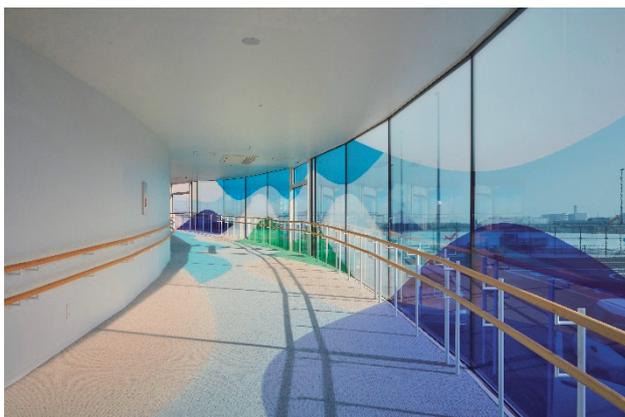
案① 踊場の点状ブロックは高齢者や車いす使用者が通行しやすいよう隙間を設ける

案② スロープの始点と終点で音声ガイド等による案内を実施

○ 事務局案への主な意見と対応

主な意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・勾配20分の1のスロープの踊場には点状ブロックは不要 ・スロープの始点と終点に案内があれば、途中の踊場には点状ブロックは無くても良い ・始点と終点の案内には、どこに向かうのか、今どこにいるのかをはっきり教えてもらえると良い ・点状ブロックは、上りは不要(怖くない)、下りは危険(少し怖い)を知らせるため必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・始点と終点のみ点状ブロックを設置する ・「ミライのヘルスケア2(2階)」から「ミライの都市(1階)」へ下る110mのスロープには、始点と終点に常時音声を流す <p><音声案内の内容></p> <p>(始点)ここは「ヒカリの坂道」です。緩やかな下り坂が続きます</p> <p>(終点)坂道が終わり「ミライの都市」に到着しました</p>

○ 完成したヒカリの坂道とナビレンスの音声



ヒカリの坂道

(参考)ナビレンスの音声

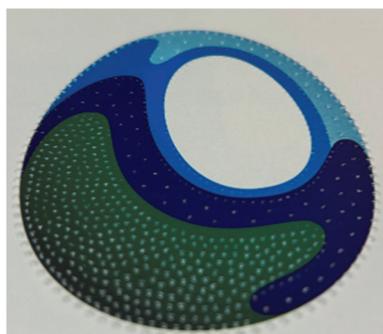
ここから、「ミライの都市」へと続く「ヒカリの坂道」が始まります。約110メートルの下り坂です。右壁にそってお進みください。途中9か所の踊場があります。左側が全面窓になっており、窓には、ステンドグラスのように、青、緑、水色、白の色とりどりのシートが貼られています。太陽の光が当たると、これらの色が坂道にうつりこみ、とても美しい空間になります。

2.6.3 館内マップ(点字版)

視覚障がい者により展示を楽しんでもらえるよう「館内マップ(点字版)」を作成、来館者への配付や事前送付も行い、会期中に計204部配付した。「館内マップ(点字版)」は、点字と墨字で記載し、パビリオンのロゴマークや建物の外形を点で表現し、触って楽しめるよう工夫した。会期後は、大阪府立大阪北視覚支援学校及び大阪南視覚支援学校に各33冊提供、図書室への配架や点字を学ぶ教員の教材として活用されている。



館内マップ(点字版)



ロゴマークの色の違いを
点字の密度で表現

会期中の配付数

単位:冊

月	事前郵送	現地配付	計
4月	22	0	22
5月	57	6	63
6月	18	11	29
7月	4	7	11
8月	6	12	18
9月	25	9	34
10月	0	9	9
配付月不明	—	18	18
合計	132	72	204

2.7 事前情報提供

2022年3月の当事者ヒアリングにおいて、トイレの場所やどんな設備があるのか、展示内容に刺激がないか、休息する場所はあるか、移動ルートに段差がないか等の情報を事前に得ることは非常に重要なことで、事前情報を適切に得られることで見通しを立てられ安心してお出かけできるという意見があった。そのため、大阪ヘルスケアパビリオンに不安なく安心して来館いただけるよう、必要とされる事前情報をみんなで考え、ホームページ等で提供した。

2.7.1 必要とされる事前情報の検討

2024年10月15日ワークショップ(第11回)で、ホームページの作成にあたって、来館前に必要な情報をわかりやすく入手できるようにするため、(1)情報を見つけやすいホームページ、(2)ユニバーサルデザイン情報(来館前に知りたい情報)、(3)ユニバーサルデザインマップ(トイレやスロープ、カームダウン・クールダウンルーム、授乳室等の位置がわかるもの)、(4)センサリーマップ(大きい音や強い光等の刺激がある場所がわかるもの)の4項目について、事務局の考え方や確認事項を説明した後、4つの班に分かれて意見交換した。



ワークショップの全体の様子



班で意見交換する様子

意見交換の項目に対する主な意見と対応

項目	主な意見	対応
(1) 情報を見つけやすいホームページ	他のページを見ている時でもユニバーサルデザインのページに移動しやすくしてほしい	メニューバーにユニバーサルデザインのページを追加する
	必要な情報を少ないクリック数で表示できたほうが良い	表示構成を検討し、できるだけクリック数を減らす
(2) ユニバーサルデザイン情報	ナビレンスの使い方等の告知を十分に行うほうが良い	ナビレンスのページで詳細内容を追加する
	カラダ測定ポッドやミライのライドの体験を事前に学習できるほうが良い	事前学習できるものを作成する
(3) ユニバーサルデザインマップ	動線を示し、スロープの上りと下りをわかるようにしてほしい	ユニバーサルデザインマップに反映する
(4) センサリーマップ	光、音の刺激の強さを段階的に表示する	人により感じ方が異なることから、刺激の強弱は表示せず、理解しやすいピクトサインで刺激の種類を表現する
	カームダウン・クールダウンルームは使用時間や使用方法をわかるようにしたほうが良い	ページに詳細説明を追記する